

流通ネットワーク

メーカー・卸・小売を結ぶ流通情報総合誌

7・8 2015
JUL・AUG
NO.290

特集

- ①包装システム最前線
- ②ダイバーシティの時代

IHI高速ピッキング・
ストレージシステム

シャトル&サーバ

S&S

IHI
Realize your dreams



- 荷揃え仕分け
- ピッキング補充

セクシャル・マイノリティ（LGBT）と人権を大切にする社会



日本マネジメント総合研究所(同) 理事長
経営管理学修士（MBA） 戸村 智憲

1. はじめに

さて、今回は最近はやりの「ライスミルク」や訪日インバウンド観光客さま向けの食品などにおける、本業を通じた社会貢献とダイバーシティ対応についてまとめみたが、今回はセクシャル・マイノリティについてまとめてみようと思う。

2. 日本人女性の著名人同士による日本国内での同性婚への動き

既に読者の中にはニュースで目にしたこともあるかと思われるが、日本国内で日本人著名人の女性同士が同性愛者として、婚姻関係に類する証明を区役所から取得し、その後、同性婚を目指して手続きを進めるも、婚姻関係を成立させること自体には失

敗したという出来事があった。

筆者が同性婚を成立可能とする拠点として思い浮かんだのは、筆者が在住していた米国において、記憶が確かならばネバダ州においては、同性婚が公式に認められていたように思う。

しかし、本件では、非常に画期的というか、安倍政権の重要政策でもあるダイバーシティ推進や女性の活躍支援の試金石となり得そうなほどの問題提起として、日本国内における同性婚にチャレンジした貴重な一件であったように筆者は思う。

単に婚姻関係を公的に成立させたかっただけであれば、同性婚を認めている国や州などに渡航して、ごく容易に同性婚を成立させ得たであろうが、おそらくは当人同士においても届け出が受理されない可能性や社会からあらぬバッシングなども受け得る可能性すら想定内としながらも、本件はあるべき社会に向けての孤高なチャレンジであったのではないかと筆者は推察する。

筆者はいわゆる「ストレート」として、男性であり女性を恋愛や婚姻の対象とする者であるため、本件において同性婚にチャレンジした2人の勇気ある女性の胸中を十分に察し尽くせるわけではないが、国連において人権を重視した経済活動や社会活動などの普及啓発に努めてきた身として心から応援したいし、日本における真のダイバーシティ推進が民間企業のみに課せられるものではなく官公庁や公的手続きにおいても画期的に変革されることを切に願っている。

既に日本のホテルや結婚式場などにおいては、



図1

LGBTの方々などへの配慮から、予約票や申込書などから式の進行次第に至るまで、「新郎」、「新婦」といった文言（男性が新郎であり女性が新婦である、という男性と女性が結婚するのが当然であるというステレオタイプ）を改め、同性婚などに対応する動きも大手において進んできている。

筆者はよくダイバーシティは画一的な構造的課題を持ったままにある一定の人々の「多様性の尊重」をするような、突き放したダイバーシティ対応は邪道であり、多様な人々の相互に「多様化」、「適応」、「人権尊重」が求められる相互に能動的なものであると口酸っぱく述べているのであるが、なかなか公的機関や伝統的な施設・企業・社会環境においては、「旧弊の堅持」を、「伝統を守ること」であるとしてはき違えて多様化しきれていないように筆者には思われる。



図2

3. 公共施設のトイレに見るLGBTなどに対するダイバーシティ対応

欧米においては、既に、公的な取り組みとしてもLGBT（レズ・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー）といったセクシャル・マイノリティーに対する差別禁止を推進する動きが加速している。

またアジアの某国においては、学校のトイレにおいても、LGBTへの配慮が垣間見られる。その学校のトイレには、男性・女性の入り口のほかに、LGBT用のトイレの入り口もあり、トイレに計3カ所の入口・個室が用意されているのである。

日本では、公共施設のトイレを見渡してみると、

ある程度の配慮があるトイレにおいても、男性用・女性用・多用途（オストメイトや妊産婦や車いす使用者用）の3カ所の入口・個室はあるものの、その多用途トイレは半ば身体的ハンディキャップへの配慮がメインであるように見受けられ、「男性でも女性でもない」という性的志向の方々や、男性だが精神的には女性あるいは女性だが精神的には男性の方が、気兼ねなく当然のように用意された入口から用を足しに出入りできる設計になっているトイレは、少なくとも筆者は日本国内では見たことがない（読者諸氏でご存じの方がいれば、ぜひ、勉強不足な筆者にご教示・ご教授願いたい）。



図3

また、町中の至るところで、トイレの男性用入口・女性用入口の識別マークが、男性は紳士像をモチーフにした青色で女性は淑女像をモチーフにした赤色もしくはピンク色であることに、筆者は非常に違和感と問題意識を抱いている。

形象や色彩によって性的区別を刷り込むかのように、また、青色は男性で赤色もしくはピンク色は女性を示すものが当然であるかのような表示は、ダイバーシティ推進を逆行させる退廃的な認知形式ではないかと筆者は思っていたりする。

それでも、「青は男性・赤は女性とした方がわかりやすい」という施設管理者がいるかもしれないが、なぜ、その方が「わかりやすい」のか、また、そのわかりやすさにダイバーシティや人権における正しさが存在するのか、筆者としては非常に危惧しているところである。

日本においては、建物の構造的にも、また、その

建物の構造設計思想や社会的土壌においても、まだまだLGBTの方々などが何の気兼ねもなくまた差別や偏見も抱かれずにごく普通の光景として存在できるように、ダイバーシティの推進は後進的なものかもしれないと筆者は思っている。



図4

4. おわりに：筆者の子育てにおけるダイバーシティ対応

筆者はいわゆる「晩婚」（この言葉自体もダイバーシティ上は死語になるべきだと筆者は思っているが…）で、幼い息子の出産前後1年間はほとんど育児休業状態であった。

ダイバーシティや人権を指導する者として、わが子に対しても指導させて頂いている内容を実践してきていたりする。

息子が生まれて身に着ける衣服は、「男の子だから青色」といったステレオタイプ化した反ダイバーシティ的な対応ではなく、ピンク色のパジャマも黄色も青色も白色も黒色も、性別を理由に色によって区別した対応を取っていない。

実際、筆者の書斎に敷いてあるカーペットもかわいいバラ柄のピンク色であったり、息子が自分の意思で好きな色を決められるようになってきたつい最近までは、わざわざ男の子用として青色の衣服を着させる（親が強制的に色による性差を刷り込む）ことは避けてきたりした。

筆者も家事・炊事・洗濯を行うし、それをみた息

子はキッチンにお手伝いに来てくれたりする。

おもちゃを買い与える際には、親が「このおもちゃで遊びなさい」と決めつけ押し付けるのではなく、息子がおもちゃ売り場で自ら気に入ったものを買って遊んでもらっていたりする。

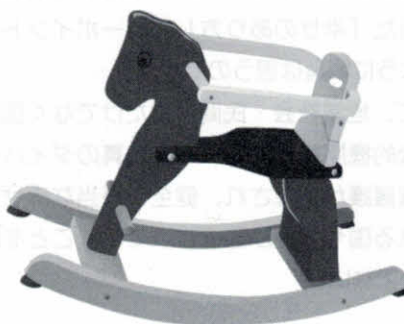


図5

その中で気づいたのは、親戚などがいくら高価あるいは希少なおもちゃを買って与えても、息子は進んで遊ばない反面、意外と値段がお手頃というか、金銭価値で物を判断する悪習慣がついている大人側からすれば、「えっ、そんな安いものでいいの?」と思うようなものでも、息子本人が気に入っているものは進んで遊びとても喜び幸せそうに抱きかかえて床についていたりする。

わが子を育てさせて頂ける親となる機会を得て、筆者自ら反省しつつ考察してみるのであるが、物の価値や幸せは金銭的多寡や希少性によるものでもなければ、誰か他の人が良いと思うものを与えられて幸せになるものでもなく、本人自身が気に入って物事に向き合って初めて、「与えられた幸せらしきもの」ではなく「自ら感じる幸せ」に至れるのだということに、改めて気づかされる昨今である。

その「与えられた幸せらしきもの」には、「男はこう、女はこう、だから男だったらこうすべき、女だったらこうすべき」ということも包含されることであらう。

男女差ならずとも、上司・部下という職位差や職種の差をはじめ、ライフスタイルの違いや労働観の差異などにおいても、それぞれの人にそれぞれ

の「与えられた幸せらしきもの」と「自ら感じる幸せ」があり、その方々が国家や地域社会を構成している構成員となっているのである。

ダイバーシティの推進や人権擁護といった、一見して難しそうに思えるテーマにある重要な観点のひとつとして、わが子が親である筆者に身をもって教えてくれた「幸せのあり方」がキーポイントになっているように筆者は思うのである。

そして、地域社会・民間企業だけでなく国家・自治体・公的機関などにおいても、真のダイバーシティと人権擁護が推進され、健全に妥当な幸せを自ら感じられる国や社会が醸成されていくことを筆者は願ってやまない。

以上につき、今回は、セクシャリティーや人権対応というCSV経営の基盤をなすものの1つについて、実際の体験や取材などを通じてまとめてみた。

また、本稿を契機として、筆者の見識不足であれどあれ、CSVに関する議論やその他各種課題についての議論活性化の呼び水となるようであれば、筆者としては幸いである。

【執筆者紹介】

戸村 智憲（とむら ともりのり）

早大卒。米国MBA修了。米国博士後期課程（Ph.D）中退。国連勤務にて内部監査業務の専門官、国連戦略立案専門官リーダー、国連が進める世界的CSR運動である「国連グローバルコンパクト」広報・誘致業務担当。民間企業役員にて、監査統括、人事総務統括を担当。上場IT企業のJFEシステムズ(株)アドバイザーやJA長野中央会の顧問なども担当。日本マネジメント総合研究所合同会社の理事長として、産学共に活動中。岡山大学大学院非常勤講師など教鞭をとる立場にも身を置いてきた。

29冊の出版物をはじめ、NHK「クローズアップ現代」番組監修・TV出演、テレビ朝日「そうだったのか！池上彰の学べるニュース」番組監修、BS11報道番組「インサイドアウト」でのコメンテーター（トヨタのリコール問題とリスク管理）、NHK（Eテレ）「めざせ！会社の星」専門家ゲストTV出演・番組制作協力などの出演の他、各種メディアでの情報発信などにも意欲的に取組む。

代表的な書籍として、『企業統治の退廃と甦生』（戸村智憲 著、中央経済社）、『クリエイティブ監査への道』（戸村智憲 著、税務経理協会）、『しっかり取り組む「内部統制」：企業健全化プログラムと実践ノウハウ』（戸村智憲 著、実務教育出版）など。

NIKKO EXTRACT SERIES エンジニアのための 情報セキュリティ入門

「月刊自動認識」誌に2011年7月号～2012年11月号の計17回に渡ってシリーズ連載された内容を纏めPDF版として提供。

■主な内容

- セキュリティ評価
- プライバシー影響評価
- 著作権保護
- サーバ・ネットワークセキュリティ
- 暗号技術
- 認証技術
- クラウドコンピューティングセキュリティ

日本工業出版(株) 0120-974-250

<http://www.nikko-pb.co.jp/> netsale@nikko-pb.co.jp



■体裁：PDF 128頁判 CD-R
■定価：2,000円（税込）